

令和3年度第1回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和3年4月23日(金) 午前10時00分

開催場所 仙北市役所田沢湖庁舎 3階 第1会議室

出席者

(構成員)

仙北市長	門脇光浩
仙北市教育委員会教育長	須田喬
仙北市教育委員会教育長職務代理者	坂本佐穂
仙北市教育委員会委員	橋本勲
仙北市教育委員会委員	田口桂一郎

(市長部局)

仙北市副市長	倉橋典夫
総務部長	大山隆誠
総務課長	藤村幸子
総務課主事	佐々木明日香

(教育委員会)

教育部長	藤原真栄
教育次長兼学校教育課長	鈴木徹
北浦教育文化研究所長	伊藤昭光
教育総務課長	湯澤満
生涯学習課長	武藤寛幸
中央公民館長	高橋良宣
社会教育専門官	佐々木幸美

欠席者

仙北市教育委員会委員	細川伸也
------------	------

案 件

- (1) 学校施設長寿命化計画と学校適正配置の今後の取り組みについて
- (2) 公民館活動の進め方について
- (3) G I G Aスクールの進め方について

大山総務部長 ただいまから、令和3年度第1回仙北市総合教育会議を開催いたします。

はじめに、会議の主催者であります、門脇市長からごあいさつをお願いいたします。

門脇市長

おはようございます。新年度に入りまして初めての総合教育会議です。いくつかの今日は重要な話し合いがあると思いますけれど、最も重要なのは、新年度に入って須田教育長をお迎えし、また田口教育委員をお迎えし、さらに教育委員会事務局もまた、総務部も顔ぶれが変わっておりますので、ぜひ様々なこれまでのご意見、蓄積があったものを共有する場面という事で、皆様方にはお時間を過ごしていただきたいと思っております。

そしてもうひとつは、今日ですね、東京、大阪、京都、兵庫、四都府県に3度目の緊急事態宣言の発出が決まるという動きになると思っております。愛知県はまん延防止重点地域に指定されると思っております。

非常にコロナ対策では教育委員会ははじめ、市の沢山の方々のお手伝い、ご協力をいただきながら感染防止対策を決めておりますけれど、特に子どもたちの生活を心配しております。家庭生活もそうですし、学校生活もそうであります。何より子どもたちの事情が平穏でなければいけないという思いがあります。しかしながら、大変残念な状況が県内でもありますし、全国にも感染拡大の波の中に子どもたちが飲み込まれようとする現

実もあります。

何とかこれまで仙北市は感染防止、抑止に市民の方々大変多くのご努力をいただいて、どちら様もまだ感染者の発生がないという状況がありますけれど、決してこのまま終わるということはないというふうに私達も覚悟しております。いつ感染者が出るか分からない。だけれども、出来る事なら子どもたちの生活に支障のあるよう感染の発症のしかたは避けたい。そういう思いであります。

教育委員会としても、大きな様々な事業を抱えているなかではありますけれど、どうか何よりも子どもたちの健康をしっかりと守るというそういう思いで、教育委員会の方々、また教育委員会事務局の方々にはよろしくお願い申し上げたいと思います。

今日はそういう事で、三つ、四つ、色々な話をさせていただきたいと思えますけれど、どうか皆様方から活発なご意見、様々な思いをいただければと思います。

よろしくお願い申し上げます。

大山総務部長 続きまして、須田教育長からご挨拶をお願いいたします。

須田教育長 おはようございます

本日ここに門脇市長、倉橋副市長、大山総務部長等部局の幹部の皆様と、そして教育委員会の皆様のもとに、仙北市総合教育会議を開催出来ます事を、まずもって感謝申し上げます。

この後、教育委員会の事務局の方から、今年度の重点事項について説明があると思えますけれど、皆様から意見を沢山いただきましてそれを今年度具現化して行きたいと思えますので、よろしく願いしたいと思えます。

協議に入る前に私の方から大きく三点お話をさせていただきます。一点目が、今行っている学校訪問についてですけれど、例年であれば4月早々「仙北市教職員の集い」というところで

教育長が挨拶をするわけですけど、今年度、昨年度と同じですけど、感染防止という事で、この集いが出来ません。そこで、一校一校を廻って、私の新教育長の想いとか願いを伝えております。一番良いのは、直に教職員の皆さんの表情、校務員さんも含めて、見ながら話が出来るという事で、非常に私としては、やって良かったなと思っております。そこでは四点ほど話をしております。

一つ目は、教職員の健康面の配慮についてですけど、健康でなければ教育は出来ない。是非、皆でカバーしあって健康面に付いては十分注意をはらってもらいたいと話をしております。この話をする時が、校務員さんも含めて教職員の先生方がいちばん話を聞いてくれます。多分、先生方って元気な訳ですけど、仕事と共に、子育てであったり、介護が本当に大変だという事で、多分話がしみるんでしょうね。私の方もやっぱり先生方って忙しいんだなってことを実感出来た場面でありました。

二点目が、子どもたちといいますか、仙北市が目指す児童生徒像についてです。この話は何度もしていますけれど、やはり少子高齢社会においては、骨太の人間の育成、仙北市プライドの醸成というところで、この二つをキーワードにして先生方に訴えています。やはり郷土を誇りに思い、郷土を支える人間を育てる必要があるという事で、その為にもG I G Aスクール構想があり、様々な事業があると考えています。

三つ目が、目指す教師像ですけども、これも何度か話しておりますけれど、子どもの心に火を灯す教師集団になって欲しいという事を訴えております。

四つ目が、先ほど市長からもありましたが、コロナ禍において、子どもたちの成長保証をしてほしい、感染防止に努めてほしいという話をしております。

大きな項目の二点目が、学校統合についてです。令和3年4月1日現在、今年度の4月の状況で児童生徒数、小学校が91

8人、中学校が583人、合計1,501人、まず1,500人仙北市には子どもがいるということであります。市町村合併時、平成17年の小学校児童数は1,514人、中学校生徒数が803人でしたから、小学校児童数が約600人、中学校が約220人の減少と、合併時よりも820人位の減少であります。小学校3校減少しております。そういう状況を鑑みて、仙北市においても、仙北市学校適正配置検討委員会を設けて、様々な視点から協議を重ねて意見を頂戴したことについては皆様ご存知のことと思います。これは私の考えですけど、統合問題については、国の基本方針、それから仙北市学校施設長寿命化計画、費用対効果、住民や保護者の思いなど様々な視点から議論をしていく必要があると思います。行政の施策については、スピード感をもって対応するようにと教育委員会の幹部の方には指示しておりますが、この統合問題については、やはりじっくりと議論をしていく必要があると考えます。

文部科学省の方も、学校規模の適正化や適正配置の具体的な検討は、行政が一方的に進めるのではなくて、地域と共にある学校づくりの視点が必要であると申しております。白岩地区や桧木内地区の統合問題もベストな回答はないとは思いますが、何が一番ベターなのかを、そして一番大事な視点が、子どもたちにとって何が一番幸せなのかを基に議論を重ねて行きたいと考えております。

大きな項目の三点目が、生涯教育に関わる内容であります。上質な文化を市民に提供するを合言葉に様々な事業を展開して行きたいと考えております。

仙北市の中央公民館構想を具体化していくのも今年の課題です。また、各地区の公民館や市民会館、平福記念美術館、勤労青少年ホーム等の施設の老朽化に伴い、大幅な改修工事が必要な建物は沢山ありますが、財源には限りがあり、どの施設から改修していくかも大きな課題であります。財政的な面でも市当局と協議をしていかなければならず、この会議でも協議して

いただければと思います。

以上、三点お話しさせていただきましたけれど、本日の会は本年度最初の会議ですので、皆様から色んな視点でご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

大山総務部長

はい。ありがとうございます。

続きましては、構成員紹介とありますけれど、人事異動等に伴いまして構成員の入れ替えが行われております。

ということで、今日お配りしております出席者名簿がありますけれど、この順番に簡単ですが自己紹介の方をお願ひしたいと思ひます。

門脇市長からお願ひいたします。

門脇市長

門脇光浩、仙北市長です。

皆様方と一緒に、これは首長とそれから教育委員会が一緒になって、教育政策をより高めていこうという場面であります。

当時、イジメとか色んな問題があつて、教育委員長がどうなるのか、教育長がどうなんだとか色んな話があつた時に、責任の所在をハッキリさせろという事で教育長制度を強化、それから教育対策、それからもう一つは総合教育改革だという事が大きかつたと思ひます。そういう経過があつて今この様に皆様とお話をしています。今教育長がお話したとおり、非常にパワフルな教育長をお迎え出来ておりますので、どうか皆様一緒になって、教育行政と市の行政と一体化して課題を解決していく、そんな会になりたいと思ひます。

よろしくお願ひいたします。

須田教育長

4月に教育長を拝命しました須田でございます。よろしくお願ひいたします。

市長と同じまでは行きませんが、自分の長所はフットワークの軽さでありまして、今、色んなところを回つて勉強していると

ころでございます。

何卒ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

坂本教育長
職務代理者

職務代理者を拝命いたしました坂本佐穂と申します。

皆様と共に学びながら進んでいきたいと思えます。当初から私が心の中にあるのは、私は仙北市のお母さん代表でここにいるのだと、そんな気持ちでおります。仙北市の子どもたちのために出来る限りの事をやっていきたいと思えます。

よろしくお願いいたします。

橋本教育委員

教育委員の橋本勲です。よろしくお願いいたします。

田口教育委員

4月1日から教育委員として任命されました、田口桂一郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、30年間の学校現場、10年ほどの教育行政に携わった経験、それを生かして欲しいという事で任命されたものと理解しております。その経験を少しでも活かしながら、教育環境の充実に向けて何か出来る事があれば、一生懸命頑張りたいというような思いでおります。

どうぞよろしくお願いいたします。

倉橋副市長

おはようございます。副市長の倉橋です。よろしくお願いいたします。

この4月は、仙北市の教育委員会の新しいスタートなのかなというように思っております。須田教育長、田口桂一郎先生が教育委員に代わったのは勿論なのですけれど、この名簿の教育委員会の教育部長以下のメンバー全員代わりました。私も何げなくして今気付いた点です。本当に名実ともに新しい教育委員会がスタートしたという事で大いに期待しております。

これからよろしくお願いいたします。

- 大山総務部長 総務部長の大山です。
分からない事だらけではありますけれど、皆様のご指導のほどよろしく願いいたします。
- 藤村総務課長 総務部次長兼総務課長の藤村幸子です。どうぞよろしく願いいたします。
- 総務課佐々木 総務課の佐々木明日香と申します。よろしく願いします。
- 藤原教育部長 教育部長の藤原と申します。
先ほどから何度かお話が出てますけれど、私が事務局の幹部、本当に一年生、皆一年生です。ただその分新しい発想が出てくるのではないかと考えています。何かしら、私だから出来る発想、仕事というのをこの1年間でやれるように心掛けて行きたいと思います。
よろしく願いいたします。
- 鈴木教育次長
兼学校教育課長 教育次長兼学校教育課長の鈴木です。
3年ぶりに戻ってまいりました。どうかよろしく願いいたします。
- 伊藤北浦教育
文化研究所長 北浦教育文化研究所の伊藤昭光です。
どうかよろしく願いいたします。
- 湯澤教育総務
課長 教育総務課長の湯澤満と申します。
教育総務課は2年目となります。その前は子育て推進課というところで、子どもに関わるところで仕事をさせていただいております。今年度も子どもたち、その他教育委員会関係に関わる事について一生懸命頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

武藤生涯学習課長 生涯学習課長の武藤寛幸です。よろしくお願いいたします。
今年度から中央公民館がスタートするという事で、今まで以上に社会教育の推進に努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

高橋中央公民館長 中央公民館長の高橋です。
4月から西木総合開発センターの方に移動しまして、西木公民館が中央公民館となりまして活動をしております。新たな形を具体化するために頑張ってまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。

佐々木社会教育専門官 同じく中央公民館の方に所属しております社会教育専門官の佐々木と申します。
3月31日で一旦退職しましたが、4月1日から再任用という形で本市の社会教育行政に携わらせていただく機会をいただきましたことに心から感謝申し上げます。どうかよろしくお願いいたします。

大山総務部長 ありがとうございます。
それでは早速、協議案件に入りますけれど、本日の案件ですが、「学校施設長寿命化計画と学校適正配置の今後の取組み」それから「公民館活動の進め方」について「GIGAスクールの進め方」についてでございます
ここからの進行は、門脇市長お願いいたします。

門脇市長 はい。それではしばしの間、進行をさせていただきますのでお願い申し上げたいと思います。
協議案件、事務局の方から説明いただきますけれど、その前に議事録の署名等についての指名をさせていただきたいと思うのですがよろしいでしょうか。
今回の議事録の署名員は、教育長と橋本委員の二名にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

須田教育長 はい。

橋本教育委員 はい。

門脇市長 それではよろしくお願ひしたいと思ひます。議事録が完成した後に、教育委員会を通して署名をお願ひする事になると思ひますのでご協力のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。

では早速協議に入りたいと思ひます。

一点目の案件であります、学校施設長寿命化計画と学校適正配置の今後の取組みについてであります。説明をお願ひします。

鈴木教育次長 はい。A3の学校施設の長寿命化計画の計画概要をご覧下さい。宜しいでしょうか。

教育委員会では、市の公共施設管理の上位計画である仙北市公共施設等総合管理計画の施設分類のうち、学校教育施設を対象として、施設の長寿命化計画策定を行いました。

計画期間は、令和3年度から令和42年度までの40年間としていますが、社会構造の変化や施設に対する需要の変化等に対応するため、原則として5年毎に見直しを行うものとしております。

対象施設は小学校6校、中学校5校、総合給食センター1棟とし、校舎、体育館としています。なお、来年度以降の交付金事業の採択は、学校施設の個別施設計画の策定を勘案する予定となっておりますので、現段階では市内小中学校11校を対象として計画しております。

各学校施設において、建築後の経過年数や劣化状況を把握し、今後の管理コストを算出して、施設改修の優先順の設定を行いました。

計画策定で見えてきた学校施設の問題や課題及び将来にわ

たるあるべき姿について、今後も学校適正配置意見交換会を継続して実施していくとともに、統合・再編等に関する教育環境検討会を行うなど、仙北市全体の小中学校の在り方について新たな取り組みが必要とまとめております。

長寿命化計画については以上です。

門脇市長

はい。ありがとうございます。

藤原教育部長

私の方から適正化計画について、適正配置についてのご説明をしたいと思います

教育委員の方々は既にご存じの事かと思いますが、改めてご説明させていただきます。

先ほど教育長の方からもお話ありましたけれど、この件に関しては拙速に物事を進めるのではなくて、十分な協議、地元のコンセンサスを大事にしながら進めていくべきだと考えております。

現在、白岩小学校についてですけれども、1つの複式学級が存在します。これが来年になると2つになる可能性がございます。適正配置の検討会の方から提言書をいただいておりますけれど、その検討に入るタイミングとして、継続して複式学級が発生すること、かつ全校児童数が50人下まわることという事が提示されてございます。現在白岩小学校の場合全校生徒55名ほどおりますけれど、向こう6年間ほどの将来予測をすると、明らかにちょっと厳しいかという現状でございます。

ただ、地元との協議がまだ始まってございません。今年度から意見交換という形で会議を開催していく予定にしております。白岩地区についても、学校とコミュニティがかなり深く関わっている地域でもございますので、十分に協議をして行きたいというように考えてございます。

適正配置については以上でございます。

門脇市長

はい。ありがとうございます。

長寿命化計画と適正配置についてアウトラインを皆様共有していく場面であります。ここからは現状やこれからの対応についてのご意見であったり、様々な方向性であったりと色々な意見を出し合って行きたいと思います。

橋本委員、今の話でなにかありますか。

橋本委員

令和2年度に作成した、仙北市学校長寿命化計画の中に、整備優先順位表というのがありました。それに基づく整備が出来れば一番いいと思うのですが、今お話のあった様に児童生徒数が減少しているという事で、今後の適正配置の検討対象校については、住民との意見交換会、そういった状況をみながら進めて行く事が必要ではないかと思えます。

それからもう一つ、令和元年度に生保内小学校の改修を計画していたんですけど、長寿命化計画の策定が優先するという事で改修が先送りされた経緯があります。そういう事もありますので、生保内小学校については、やはり計画の整備優先度も高いようですので、優先的に検討を進める必要があるのではないかなと思えます。

学校適正配置については、先ほど教育長の方からもお話ありましたし、今、部長からもお話があったように、あまり急いで進めるという事ではなくて、丁寧に地元の人や住民の皆さんと意見交換しながら、子どもにとって何が一番良いのかと考えながら進めていただきたいと思います。

門脇市長

はい。ありがとうございます。それでは田口委員お願いします。

田口委員

はい。まず長寿命化計画の方ですけれども、こうした計画に従って予算をつけていただいて計画的に、環境を整備し、安心安全な学校づくりに努めていただける事は大変ありがたいこ

とだなど、学校現場にいた者としてはそう感じておりますけれど、この計画の詳しい中身について、どういう修繕が入るのか、あるいはどういう会社が入るのか、大規模というのとはどのような規模なのかまだ理解しておりませんが、やはり私が現場にいて感じている事は、子どもたちの安心安全上、やはり小規模な改修が必要な場面が出てきます。そうした場合の対応をこれまで適切に、緊急性のあるものについては丁寧な対応をしていただいておりますので、それについては優先的にやっていただければありがたいなと思うのが一つと。

それから昨年、学校を訪問する機会が別の仕事でありまして、校長先生方の話題の中で、まずトイレを見てくれとある中学校の校長先生から言われました。和式のトイレが、特に女子ですね。1階、2階、3階と数はあるんですけど、洋式も整備していただいたのだけれども、4分の1程度だと。女の子達が可哀想だと。順番待ちをしていると。何とか、トイレだけでも整備を早めに進めていただけないものかという訴えがありました。そのことは教育委員会の事務局の方へ伝えておきますとお話させていただきましたけれども、トイレの整備についてはどうなっているのかなど。特に生保内小学校、あるいは神代中学校、他の学校もかなり建築から年数が経っている学校もあろうかと思えます。洋式化というのも当然進めていただいているとは思いますが、まだ和式が中心だという学校も多いと聞いております。子どもたちの生活様式の変化といった事を考えますと、やはり、特にトイレについてはですね、男女格差が入っては当然駄目だし、女の子にとってプライベートに関する事も沢山あるだろうし、家庭や小学校では、大分洋式化が進んでおりますので、あるいは幼稚園、保育園なんかも洋式化が進んでおりますので、中学校に来たら今まで全部洋式を使ってきていたのに和式を使わなければならないとか、そういった現状もありますので、どうかトイレとか生活に本当に必要なものは優先的に、この長寿命化とは別途に整備していただければ有難い

のかなというように感じております。

いずれ財源等の問題もあろうかと思えますけれど、その点について計画的に整備をしていただければ有難いという事があります。

それから、避難所として学校が指定されていると思えます。いざという時に市民が避難して来た時に、まあ当然トイレ等も使うと思えますし、あるいは備品等が緊急に必要となった時に対応という事で、管理職等がいつも頭に抱えている課題でございいます。現状としては多分、当時の校長会から仙北市の方に緊急避難所になった場合の対応はどうなるのかという事で、かなり質問をして回答をいただいております。それは理解しております。物品については近くの倉庫から緊急に運び出すという事で、学校に食料、あるいは毛布、そういった備品等は必要ないとか、万が一の発電機、そうした整備等もその時に対応するというようなお話いただいて理解しておりました。

まずそういった方針で良いのかどうか、あるいは市民が一旦避難した時に本当に安心安全な対応が出来るのか、あるいは備品等の対応は出来るのか、ということについて担当部署でもう一度検討していただければ有難いなというようにこれは普段から感じていることとございいます。

次に、適正配置についてですが、教育長、あるいは部長、橋本委員がおっしゃったとおり、地域とのコンセンサスを十分取りながら、それを優先させて、じっくりと話し合って進めていただきたいということに尽きると思えます。ただその際、様々な説明はあるかと思えますけれども、小規模校なりの素晴らしいメリットのある、デメリットを解消させてメリットを本当に生かした工夫した特色ある取り組みを一生懸命、この学校を失くしたくないという思いで、学校は取り組んでくださっているというように思っています。そんな中でも、やはり将来的な子どもたちの本当の、より良い環境はどうなのかという事を丁寧に協議して、デメリット、メリット、統合のデメリット

ト、メリット等もふまえて、そこらへんを丁寧に説明していただければ有り難いなというように思っております。以上です。

門脇市長

ありがとうございます。

坂本職務代理人、お願いします。

坂本教育長
職務代理人

はい。長寿命化計画と適正配置とこの二つは、一緒に考えなければいけない部分と、分けて考えなければならない部分があるように思います。

先ほど橋本委員からも出ましたが、私もずっと気になっていたのは生保内小学校のことです。今いる子どもたちが過ごしやすい環境をつくってあげるという事も大事ではないかと。様々な問題があるとは思いますが、子どもたちの幸せを願うという先ほどの教育長からの言葉にもありましたように、誰の為の改修なのかという事を前提に進めていただきたいと思っております。

それから適正配置に関してですけれど、昨年、中川小学校、角館小学校を訪問いたしました。長い時間をかけて、特に中川の保護者の方達、地域の方達からの意見を聞いて、統合という決断に達した訳ですが、その統合した後の現在の中川小学校の子どもたち、あるいはそれを受け入れた角館小学校の子どもたち、それから地域の方達は今、どんな気持ちなんだろうという事を何かで知る機会があればなと思います。マイナスの声は今のところ聞こえては来ていませんが、正直なところ、統合に関して本当に良かったという声を聞いて、確実なものにして、それを次の適正配置の検討に生かしていければと思います。

簡単ですが、以上です。

門脇市長

はい。ありがとうございます。

次は教育長からお願いします。

須田教育長

まず、坂本職務代理者からありました、角館小学校の実態については、昨日も角館小学校へ訪問して色々な話をしてきたんですけれど、今のところは落ち着いて子どもたちは過ごしているという事で安心しているところではありますが、その先ほど言われた様に、安心だけじゃなくて、良かったというところについてはまだ意見をもらっていませんので、少しそこについてはもう少し調査といいますか、話を聞いてみたいと思っているところでもあります。

それから先ほど田口委員の方からありました、避難所の問題については、やはり早急にもう一度、部局と学校を避難所にするにあたっての優先順位というか、地域には避難所がありますので、どこから避難所にしていくのかとか、どのように住民に伝えていくのかはもう一度しっかり協議をしていく必要があるのかなと思ったところです。

以上です。

門脇市長

はい。ありがとうございます。

いろいろなご意見ありがとうございます。私もちょっと気になったところがあったので、昨年の中川小学校と角館小学校の統合のご判断いただいた市民の方々、住民の方々の思いは今どうなっているのかなというのが一つだったんですけれど、同じように適正配置のスイッチが入ったもう一つが、桧木内中学校と西明寺中学校もあった訳です。あの時、何回もやはり地域の方々とお話し合いする中に参加させていただいた時に、小規模校のメリット、デメリットは十分に保護者の方々も生徒さん方も理解しているんだなという思いもありましたけれど、そのメリットはともかくも、デメリットがあるという事を分かっていて、だけでも統合は様々な要因があってやはり難しい。その要因いくつもありますけど、物理的な距離間というものが、とても大きかったと理解していますけれど、この距離間を埋めて、デメリットを出来るだけ改善していくという事を努力しな

ければいけないんだ、という話が保護者の皆さんの中から出ていて、実態としては様々な地域の行事の再生なんかに取り組む状況が出来にくいんですけど、それがこの後もどういう状況で、子どもたち、もしくは保護者、もしくは地域の方々がデメリットを埋めて、現状を更に教育力を高めていけるというような力に出来るかどうかという事は、やっぱり私たちはしっかりと応援していかねばならないと思っていて、実態としてその状況があるという事ですから、これを何とか改善していく方向を更に地域の方々と一緒になってサポートしていくか、もしくは主体となってなにかやっていくかということが、忘れてはいけない一つの課題ではないかというように思います。

この話をしていくと、次、先ほど話のあった白岩小学校の話もありますけれど、地域の方々が、自分たちが仮にもしかして統合になった時に、地域はどうなるのだというイメージとか、子どもたちがどうなるのだとかのイメージとか共有する時間がとても必要で、決して私は統合して下さいという話をしていく訳ではなくて、そういう場面になった時には、そういう一つのイメージも必要で、そういうイメージ造りをする為に時間をかけてやっていかなければイメージをつくっていく作業をやっていかなければいけないのは当然の事でありまして、是非これについては、より良い選択をするために、情報の共有を地域の方々としていくという事が、今まさに必要だというような思いがあります。これもどうかよろしくお願い申しあげたいと思っております。

それとトイレの話はすごく深刻で、実は自分が小学校の時に学校のトイレに行けなくなって、それから他の所へ行ってトイレに行けなくなったのは、多分小学校の時のあの経験だと思うんですよ。自分の家じゃなければ、トイレに行けない人っていますよね。多分、そういう幼児期の時の経験とかがやっぱり大きく、もしかしたら生涯左右されるという事になってしまうというのは、避けなければいけないのかなと思いました。

整備というのは、勿論大変重要なことだけれど、その中でも生活習慣に対する整備というのは優先的に、やっぱり大きいファクターかなという思いがしました。財政主管をしている市としては、そういう視点もしっかりともって、教育委員会の方々などと話し合いをして予算をあげて行う作業が必要だなと改めて思いました。ありがとうございました。

他に総務の方から、副市長の方から何かお話あったらどうかお願いいたします。

倉橋副市長

ここ2年あまり、仙北市出生者数が100人を切っております。100人位ですと、普通の市町村であれば、小学校1つ、中学校1つあれば足りるレベルの話です。今年から白岩小学校適正配置の意見交換会に教育委員会として入っていると思うのですが、いずれおそらく今の状況では、角館小・中学校以外は全て学校適正配置の対象になると思うんです。そこを踏まえた議論をしていかなければならないかなど。その明暗を見ながら長寿命化の方はどうするのかという議論になっていくのではとっておりますので、市としても拙速には出来ない案件なので、非常に重要なこれからの仙北市の有り方に関わって来る問題だと思っておりますので、どうか教育委員の皆さん、教育委員会の皆さんに知恵を出し合って、市の市長部局でも関わりながら進めて行ければなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

門脇市長

はい。ありがとうございます。

他にこの案件についてご意見、お伺いございませんか。

田口委員

はい。今、市長から統合に関して、西木の桜木内中学校と西明寺中学校の保護者会の説明の時の話題の中のひとつに、距離間というお話がありましたけど、やはり物理的な距離の遠さというのは最も大きな問題だと思いますけれど、それと同時に

やっぱり精神的な距離間が遠い、短いのも非常に統合に向けて大きいのではないかなというように思います。

今、副市長からも今後の児童の出生数を考えると、その規模であれば一つの学校でも、という話もありましたけど、物理的な距離はどうしても解決出来ない点である訳ですけど、その精神的な距離を短くするには、例えば統合が計画にのった学校であれば、子ども同士の交流を数年前からやるという取組みをしながら、子どもたちが距離間を短くして、一緒になった時にすぐ馴染める様にとという取組みをいたします。今回、中川小、角館小の件でも、子どものそのような交流は行われましたけれども、同時にPTAの保護者の交流も行われたというように聞いております。私がいた後の統合の具体的なスケジュールですので、具体的な活動がどういうものだったのかは理解していませんけれど、そういう話を聞いております。もちろん、PTA同士が保護者同士のつながりというものは、今、スポ少、あるいは部活動、中学校の部活動でも、合同で行われていると、学校別ではなくて、地域一体でスポ少活動が行われたり、それから、中学校の部活動でも合同で大会に出たり、練習したりというような取組みが今行われていますので、そうした取組みを応援、支えて、保護者どうしても精神的な距離を解消していく、あるいは、市町村、あるいは地域別に祭りなんかも行われていますけれども、そうした機会に、地域別ではなく仙北市として、一体的な祭りづくりという考えで、地域の特色、歴史はあるでしょうし、地域が中心となって企画運営する訳ですけど。例えば角館のお祭りであれば、白岩の集落の方々、あるいは中川の集落の方々が参加しなければ祭りは成り立たないという現状であります。かつてよりは、大人たちの距離間が近くなっているのかと。物理的な距離は縮まらないけれど、精神的な距離間は徐々に縮まってきているのかなと。人口が少なくなれば少なくなるほど、そのような取組み一体感というものが、精神的な距離が近くなければ、そうしたお祭りも維持出来ないし、文

化も維持出来ない。

今後そのような子どもたちだけが学校で努力するのではなくて、やっぱりそのような取組みを通じて、大人集落との距離間を、精神的な距離間をどんどん無くして、一体感づくりというのは市ぐるみで、町ぐるみで統合を見据えてという事じゃないのだけれど、そうした街づくりというものが必要になってくるのではないかと。それが将来的に統合という事になった時に、スムーズなそういう転換に、それまでは反対だったけれど、やっぱりそろそろかなという転換のきっかけにでもなっていくのかなというような事を、全く個人的な考えですけど、市長や副市長の話を聞きながら感じたところでございます。

門脇市長

よく考えなければならない事ですよ。

もうひと言ぐらいずつ、時間をいただいてもいいですかね。地域の事色々見てきていると思いますので、どうですか。

橋本委員

たまたま前に桧木内中学校が対象校になって、色々意見交換を行いました。その中でも保護者の方々が、自分達が学校を応援する活動をする事で、学校を存続させる事が出来るんでないかという事で、ひのき清流会というのを立ち上げて、学校行事に色々協力をしたり、自分達が主体的に運動会を計画したりして地域と繋がる活動を行っています。その方々の心の中にあるのは「やっぱり学校は地域に残したい」そういう気持ちがあると思います。

小規模校のデメリットを解消するために、じゃあ何が出来るのかなという事で、実は他校との交流を進めながら、そのデメリットの解消にいくらかでも繋がるのではないかという話がありました。学校間交流を進めようという状況の中でコロナが発生した事によって、学校間交流というのもなかなかスムーズにいかない状況にあると思いますけれども、やはり交流という一つのキーワードをある程度進めて、その結果はどうなるの

かなというのは、やっぱり検証する必要があると思います。そうでなければ、話し合いといいますか、意見交換会で色々お話された事の取組みがまだまだ十分でないのではないかなという声が出るのではないかなと思います。

門脇市長 はい。ありがとうございます。順番に聞いていきますので、坂本職務代理者どうでしょうか。

坂本教育長
職務代理者 はい。トイレの話でもいいですか。学校のトイレって子どもたちにとっては、とても大事な場所だと思いますので、現代っ子たちの安心して行ける場所であってほしいというのが非常にあります。それは早々に解決してほしいなと思います。

あと、地域の学校が無くなるというのは、やはりその地の住民、大人にとっては何か寂しいものがあるとは思いますが、やはり子どもたちの為のものだという事を優先して頑張っていきたいと思います。

門脇市長 はい。ありがとうございます。

須田教育長 トイレについては、一回の校長会でも話が出まして、ヒーターがないという事で、非常に便器が冷たくてという話も出ました。ただ予算的なものもありまして、すぐに即答は出来ないけれど、まず、財政の方とも相談しながら、と返答したところで

す。

神代中学校の校長先生からもトイレの話が出て、最初の話から全部和式なのかと思い調査を行いました。洋式もあったわけなのですが、その数がそもそも足りないのだという話もありました。それについても市長も大事なスペースであるということですので、この話についても補正ということにはいかないでしょうけれども、当初にあげるようにしていかなければと思ったところであります。

あと統合については、いつも教育部長が教育長室にくるとその話になりまして、二人で1時間くらいほぼ2日か3日に一回くらいのペースで話をしています。昨日は、幹部を集めてフリーの話をしました。例えば、白岩小学校は2年後には兄弟が一緒になった複式になる状況もあると、この間白岩小学校に行った際に校長先生から言われまして、何が難しいかというところをどのようになに活性化させていくという視点から行けば、学校はあったほうがいい。ところが、子どもたちが切磋琢磨する場面であるとか、集団で討論する場面であるとか、そういう子どもたちのことを考えるとある程度の規模の人数がないと子どもって成長しないので、という部分もあって非常に色々な問題があって必ず最後はどうしたもんかなとなってしまう。

今回も生保内中学校と小学校、それから桧木内小学校、中学校に電話をして、私の方から一番遠い子どもはというと、前も調べたときと同じように17キロから16キロでした。それを持ってくる30キロくらいになってしまう。どうしようかなと思う話もあったり、また、今までの概念を全く変えて田沢湖・西木・角館を思い切って取っ払って、旧市町村を越えた統合もあるのかなという話もあって、毎日悩んでいるところです。

門脇市長

大変難しい議論になると思いますけれども、よく言われているのは、地域が子どもたちのことを人質にしないでくださいという話をよくしていて、すごく誤解がある話なので難しいのですが、地域の方々にとって学校が重要な、学校が重要だと言いたいがために子どもたちのあだこうだを引き合いに出すのだけはやめてください。主役はあくまでも子どもたちです。なんていう話をずっとしていて、そういう視点はしっかりと皆様お持ちなので、そういう視点を持って議論すれば、ベストではないかもしれないけど、今最も適切な判断だという時がいずれ来ると思います。時間をかけてゆっくりと議論していきたいと

思います。

他になにか意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。それでは、一点目の協議案件についてはまだまだこの後さまざまな議論が必要ではありますが、共有したということにさせていただきたいと思います。

二点目です。公民館活動の進め方についてであります。高橋館長お願いします。

高橋中央公民館長

中央公民館の高橋です。

公民館は、市民の皆さんの身近な学習施設として利用していただいています。今後も皆さんの学習需要に総合的に応える施設を目指し、中央公民館が中心となり、各公民館と積極的にその役割を推進したいと考えております。令和3年度は中央公民館へ予算が一本化されています。詳細については、田沢湖・角館・西木の予算を統合したもので、各公民館での事業展開に流動的、効果的な対応が可能としています。これまで行ってまいりました3館特有の事業などは、今後情報共有を図り、他の地区での展開や、人気講座、事業の合同的展開などの実施を検証し、より良いものにしていきたいと考えており、地域性、独自性など、良いものは残しながら、統一感を持って活性化に臨んでいきたいと考えております。

その為に、次のステップを踏まえて進めたいと考えております。一つめは新しい講座・教室の提供学習活動の活性化を目指し、市民へ新しい講座、教室の提供に努める。過去の分析で若い世代の参加が少ないこともありまして、新たなニーズを掘り起こし、それからそれに対してのアピールに努めたいと考えております。こちらは、アンケート利用、市の広報やホームページなどを使って活動してまいりたいと考えています。

二つ目ですが、公民館情報の収集、分析が必要と考えております。新しい学習情報や機会を市民へ提供できるよう、先

進事例や県内・県外の情報を収集、分析し、市内での活動に落とし込めるようにしていきたいと思っております。秋田県公民館連合会や仙北地域公民館連合会など、近隣情報の収集し、活動に活かしていきたいと思っております。

三つめは情報分析、計画立案のために職員の資質向上のため研修参加が必要となります。公民館活動を通じ、市民へより良い生涯学習を提供するために、各種研修への積極的に参加し、職員の資質の向上を目指します。秋田県生涯学習課のほうで提供していただける研修提供研修、公民館職員専門講座などを利用し、公民館全体で取り組んでいきたいと思っております。そして、最終的には公民活動の活性化に繋がりたいと思っております。活動の方針としては以上であります。

そのほかについてですが、新年度中央公民館となってから20日とちょっと活動してきまして、課題というのが見えてまいりましたので、情報共有をということで述べさせていただきます。地域施設の鍵の取り扱いでございますが、生涯学習施設以外の公共施設、例えばグラウンドや体育館等の受付業務も中央公民館で取扱うよう検討しました。市民の利便性を考えて、業務を請け負っているわけですが、市施設の予約方法の統一と併せ、検討が必要かと思っております。

また、中央公民館の施設関連では、大変人気がある料理教室等で使用する調理室がなく、給湯、水道設備も一階の表にしかなく不便との意見も利用者の方からいただいております。西木総合開発センターの中にはありますけれども、こちらだけではいろいろ工夫の余地があります。調理関連の講座については、西木コミュニティーセンター、旧西木の保健センターですけれども調理室がありますので、多角的な施設の利用を検討しまして今後の活性化に繋がってきたいと思っております。

私からは以上です。よろしくお願いいたします。

門脇市長

はい。ありがとうございます。いま高橋館長の方から現状等についても情報の共有をいただいたところであります。これについても皆様からお話を伺いたいと思います。

橋本委員

今、ご説明がありましたけれども、今年度から中央公民館を設置してスタートしていますので、これからは中央公民館が主体となって、仙北市全体の公民館活動を考えていかなければならないというように思います。

お話にもありましたけれども、それぞれの地域ではずっと継続して行っている講座があると思います。ただ、その中でも毎年、去年やったから今年もやるということではなくて、ある程度検証して入れ替えるとか、そういうこともしていかなければいけないのではないかなと思います。

それともう一つは、仙北市の公民館活動ということで、市の公民館全体でひとつ事業を展開していくという共通の事業があったらどうかなと思います。例えば、現在仙北市でSDGsを推進しておりますけれども、なかなか市民への浸透はいまひとつなのではないかと思います。そういった事業も公民館活動の一つとして取り組んで、その意義とか内容とかを理解できるように皆さんにPRしていければ、そこからいろいろな活動が広がっていくのではないかと思いますので、そういったところも考えていただければと思います。

門脇市長

ありがとうございます。田口委員お願いします。

田口委員

先ほどの討論のときも、精神的な距離感についての短縮というお話しをさせていただきましたけれども、中央公民館構想によって地域間での一体的な公民館活動が更に推進されるのではないかなという期待感があります。様々な公民館活動を地域のこれまでの取り組みを大事にしながら、そういったものは継続させてまた新たな一体感づくりの行事や講座等も

積極的に取り入れて、中央公民館構想のメリットを最大限に活かす活動をしていただくことに非常に期待をしております。進めていくうえで様々な問題点も出てくるかと思えますけれど、中央公民館の活動を成功させて、いっそう推進させていただきたいと思えます。

それぞれの活動をするうえで、住民にとっては角館から生保内に行かなければ参加できないとなると二の足を踏んでしまうことになる教室、講座もあるのではないかなと思えます。中心が車社会であろうとも、車を使わない高齢者がこの活動の中心になっているのだと思えますので、やはり地元での公民館活動での活動をということもとても大事だと思うし、魅力ある講座については弾力的に二つの公民館でもできるだとか、時期をずらして行うとか、そんな工夫をしながら市民のニーズに答えた魅力ある活動を中央公民館が中心となって計画し、よりいっそう生涯学習の環境が充実するよう期待しているところであります。以上です。

門脇市長

ありがとうございます。坂本職務代理者お願いします。

坂本教育長
職務代理者

個人的な感想になってしまうのですが、私は一週間に2回ほど西木公民館を利用させていただいておりました。引き続き中央公民館ではこの四月から教室をやっておりますけれども、西木公民館のときのあたたかい雰囲気そのままに中央公民館に移っていただいて、私たち大人もそれから子どもたちも安心して快適な環境に通えるということを非常にありがたく思っております。保護者の方が送迎されるわけですが、きれいになったあの場所を見に、二階にまで上がってくることもあって、地域の方たちに非常に興味をもってもらっているという感じがいたします。先ほど、館長からお話がありましたが、調理室がないとか、あとピアノもいま公民館にないと聞いておりますので、様々な事がこれから市民の方に

要求されることもあるかもしれませんので、対応していける限りのことは対応していつてもらえたらなと思っております。

また、西木地区の方には公民館がここに移った、中央公民館になったということは浸透してきているとは思いますが、それがほかの地区の方たちにも、もっともっと広まるようにここが中央公民館なんだと、西木の人のためだけのものではないんだと、地域を取り払っての活動が出来るような取り組みをしていつてもらいたいと思います。

ただそれと同時に、先ほど田口委員からもありました高齢の方が足を運ぶ場合に不便な場合もあると思いますので、同じ講座を3地区で出来るとか、なにかそういった市民向けの取り組みも期待しているところです。以上です。

門脇市長

ありがとうございます。教育長、お願いします。

須田教育長

最初、部長と一緒に回りまして、利用状況であるとか何か不備はないかとかの聞き取りを行いました。私が思っていた以上に、いろいろな施設の予約が埋まっているわけですね。今まで公民館がやってきたことが、市民に受け入れられているなど非常にうれしく思っていたところです。

やはり施設面については、本当に老朽化が進んでおりますので、どのようにして改修をし、そして市民にとってどのようにあったら一番良いのか、各部局と相談しながら進めていかなければならないと思います。

門脇市長

確かに施設は非常に老朽化していて、公民館活動を行ううえで職員の方々はもちろん、市民の方々にもご迷惑をおかけしていることがたくさんあると思います。

昔、私に、公民館は民力のバロメーターだという話を伝えた先輩がいました。いろいろと公民館活動で悩んでいたとき

には非常に勇気づけられた話でした。公民館に行ってみれば、公民館に来ている人の表情を見ればそのまちが分かるというような話を今、思い出しました。ぜひ、皆さんが何かを求めたり、元気をというような公民館になってほしいなと思います。

以前から中央公民館構想の議論について、生涯学習課等で随分されてきて、その形が今のこれかと聞かれたら少し違って、今の現状の公民館の在り方というのは、当時議論されてきた方々の思がそのまま結実したようなところまでにはまだ行ってないという現状でないかと思います。私も、更に公民館活動は楽しくなれるし、充実できるのではないかという気持ちがあって、この話については色々参考にしてほしいと思います。

さっきまで話があったとおり、公民館こそが地域を越えて市民交流をぐちゃぐちゃにするというか、かき回すような力を持たなければいけないとっていて、まさに今その可能性がある公民館が出来ましたので、中央公民館の活躍に本当に期待しているものがあります。よろしくお願い申し上げたいと思います。

副市長、何かありますか。

倉橋副市長

今、一番課題に思っているのが、角館公民館の所在の在り方だと思っております。予定では角館交流センターの指定管理で業者さんをお願いしているのですが、角館庁舎が隣に来ましたので、指定管理の期限となっている来年の3月で指定管理をやめて4月から市の直営の管理にしたいと考えております。まだどのような形で管理していくのかは議論をしていないのですが、角館公民館が入るといことも一つの考え方なのかなと思っています。そういう方向性になりましたら、皆様にも共有したいと思っています。

現在の小野崎家や東小学校であっても、今のままではない

形にしなければならないのかと思います。公民館活動にも、良い影響が出ればと思っております。

門脇市長

公民館は市役所の組織体の一つではありますが、それすらも取っ払って考えて、地域の人たちとより近いところにあるそういう存在になっていくということが非常に重要になってくるのかと思います。そんな顔ぶれがそろっておりますので、なんとか飛び込んでいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

それではこの案件についても、共有したということによりよろしく申し上げます。続いて、G I G Aスクールの進め方について、事務局の方から申し上げます。

伊藤北浦教育
文化研究所長

北浦教育文化研究所の伊藤です。

まず始めに前年度の実施状況についてご説明します。一つ目は機器の整備、インターネット回線の新設であります。それから二点目、各各家庭の I T 機器所持状況及び W i - F i 状況のアンケート調査を実施しております。三点目、先生方へアプリの使い方を研修してもらっています。2回実施しております。四点目、実際に学校が繋がる事が出来るのか角館小学校をモデル校として実証実験をしております。五点目、委員会で Y o u T u b e 発信できるような動画作成、これは英語の授業になります。それを作成して、Y o u T u b e で公開しております。以上、前年度実施しております。

二つ目、今年度どのようにして進めていくかですけれども、ハード面での準備は整いましたので、今年度はソフト面を押し進めてまいります。具体的には2点のことを進めてまいります。現在のクロームブック、端末機器で使えるアプリがワークスペース f o r e d u c a t i o n というものでございます。その使い方を先生方に研修を実施していく予定です。これを使うことで、文科省で推進している主体的、対話的で深

い学びを推進するツールになることと信じております。それから非常にこのアプリを使うことで便利になるのですが、その反面、SNSで起こっているような虐めや犯罪被害が起きてしまう可能性もございます。子どもたちを犯罪被害から守るシステム作りとして、セキュリティ・ポリシーガイドラインの策定を進めていきたいと思っております。

以上です。よろしくお願いいたします。

門脇市長

はい、ありがとうございます。では、意見交換ということで田口委員からお願いします。

田口委員

国のGIGAスクール構想の元に緊急に配備が進んだわけですけれども、将来的なことを考えるとこの整備は本当に大事なことであって、整備が進んだことについては大変学校現場において良かったのではないかと思いますけれども、ただ、同時に現場では戸惑いもあろうかと思います。整備は全部の学校にハード面では計画が進んでいるということですが、やはり、今所長の方からもお話があったとおりに、ソフト面の充実とそれを子どもたちに指導する先生方の研修の充実がこれからの肝かなと、そこがうまく進むか進まないかで整備された機器の使用率、あるいは効果・成果というものが少しずつでてくるのかなと。結局、使わせる側の学校側がなかなかそれに手をさしのべられないような現状出ればせっかく整備されても、それが実際の費用対効果、あるいは期待した成果が得られないということになると思います。ただその中で、現場も戸惑っているわけですので、その成果・効果をすぐ期待するのは、早急かなと。やはり先生方の研修が進んで、じわじわと使い方が身について、学校の中で自然に使われていくようなそんな環境を数年がかりで、場合によってはもっとかかるかもしれないかもしれませんが、長い目で見ていただければありがたいなと感じているところであります。このツ

ールやパソコンは、これから様々な場面での使用が期待されるわけですが、これからコロナ禍でのリモートあるいはオンライン授業での最も効果が期待されているところでもありますし、普段の授業の中で個別にパソコンを持ってそれをツールとして活用することを最大限の期待というふうに理解しているところでもあります。ここでやっぱり大事なのは、パソコンを使うことが目的の授業ではなくて、やはり授業の狙いがあって、学習の効果を高めるためのあくまでもツールだという認識を忘れないでいただきたい。もちろんそれを研修する先生方は理解していることですし、学校の先生方も十分理解しているとは思いますが、なかなか理解はしていてもパソコンをとにかく使わせる使うことが目的になってしまって、授業のねらいから別のものになってしまう。本来授業で目指すべきものが達成されずに、パソコンを使うことだけがねらいとなってしまうことが懸念されますので、そこも含めてもちろん研修で深めていく訳ですが、このパソコンを使うことによって将来は数年後には先生方も楽になるんだよと、楽になるという言い方は少しおかしいかもしれませんが、これまで様々な教材づくりで準備していたものを、このパソコンをうまく活用することによって効率化、効果的に両方が実現できるのだと実感を先生方に持ってもらえるような、これを使えば子どもたちにも成果が出るし、先生方も効果的に効率的に授業づくりができるのだという良さを実感できる研修をぜひ進めていただければ。単に機械的な使い方ではなくて、こういった場面で役に立つ、この場面では楽になる、もっと使いやすくなるというような話を研修で積極的に進めていただければ、現場でも使ってみようかというようなことになって、子どもたちもパソコンを使うことの良さを実感して学力も更についてくるのかなと思います。話は最初に戻りますが、先生方が使えるのかどうか、先生が使う気持ちがあるのか先生方が積極的に使おうとするか、そこが肝

なのでそう思わせられるような研修を進めていただきたいと思います。以上です。

門脇市長 はい、ありがとうございます。

橋本委員 的外れになるかもしれませんが、考えてきたことをお話しします。

先ほどご説明があったように、ハード面の設備は進んだということで今年度からいよいよ活用に向けた準備に入るといいます。その中で、仙北市、または仙北市教育委員会として指針とか方針みたいなものが一つ必要ではないかなと思います。その方針あるいは指針について保護者に説明をして理解を得ることも大切なのではないかと思います。

それから、将来的に端末を家庭に持ち帰って使うことも想定されると思いますけれども、各家庭のインターネット環境というのがアンケートでは10%くらい整っていないということでしたので、そういう皆さんの活用にあたって保護者の負担が生じないような形で配慮していただければと思います。

今、田口委員から熱のこもったお話をいただきましたけれども、研修については十分にやっていただきたいと思います。必要に応じて、保護者にもする必要があればしていただければと思います。また、先生方の負担にならないように支援員が必要であれば、活用して研修に当たってもらってはどうかと思います。将来的な話になるのですが、オンラインを使って、例えば小規模校の児童や生徒が他の学校の生徒たちと交流しながら学習が出来るとか、学校活動が出来るとういうところまで進めていただければ、小規模校のデメリットの軽減にいくらかでも繋がるのではないかと思います。よろしくお願ひします。

門脇市長 ありがとうございます。坂本職務代理者お願いします。

坂本教育長
職務代理者 田口委員から何度も出た先生への研修については、私も全く同感です。子どもたちはこういったIT機器に慣れていて、取り組みやすい。興味を持つ子はどんどん自分でやっていくと思うのですが、大人の方がそこに一步乗り遅れてしまうことはよくあると思います。指導する先生方の研修によって、学校間に差が出ないように、また、子どもたちの興味に対応したような授業を進めていただければと思います。

少し話がずれますが、英語の教育も小学校で始まりました。今年から中学校の教科書が改訂になりまして、小学校でならった単語一覧というものが後ろの方に出ているのですけれども、結構な数を学んでいます。でも実際に小学校6年生から中1にあがった子たちは、まだそこまで定着しているわけではありません。GIGAスクールも同じで時間がかかるものだと思いますので、今の低学年の子たちは少しずつ慣れていくのだと思いますが、年齢が上の子たちは、逆に自分たちでどんどん開発していけるような場面を創ってほしいと思います。

門脇市長 はい、ありがとうございます。教育長お願いします。

須田教育長 ただいま3人の委員さんたちから、大変ありがたいお話もいただきまして、これについては先ほど橋本委員がお話くださった仙北市としての指針を創っていくということについては、頑張って作成していかなければならないと思ったところです。

ツールというものに関していうのであれば、やはりわたしも田口委員と同じ考えでありまして、目的はあくまでも狙いを達成するものでありますので、ツールとして利用することで将来的に教科書をなくしたいのかななんて考えましたが、

やはり教科書はあくまでも紙ベースのものが必要だと思いますし、ツールはツールなわけです。

坂本職務代理者からあった、差が出ないような工夫も今後していかなければならないということで、支援については予算措置をして先生方の研修を深めていくと同時に、先ほど言った学校間に差が出ない工夫でもありますので、先生方の研修は必要なのかなと思ったところであります。

仙北市がこれからどうやって発達していくかと考えたときに、この子どもたちがいろいろなものを使って観光であったり、農業であったり、インターネットを使いながら様々に発信して、経済的にも利潤を生んでいかなければいけない地域だと私は思います。だからこそ、こういったものを子どもたちが使いこなしていくことが必要だと思いますので、その辺についても先生方に理解してもらわなければならないと思っています。以上です。

門脇市長

ありがとうございます。非常に重要なお話が続いております。同感であります。

市としては、G I G Aスクールを導入するタイミングがコロナの感染が広まった時であって、コロナ感染対策本部的な考え方から行くと、去年急に学校が休校になってしまって、どうやって皆さんに教育を提供できるかとなったときに、コンピューターが各家庭にあれば、色々な情報も共有もできるし、それを活用した教育提供もできるのかなんて、そういったことが主となってしまって、本来であればG I G Aスクールの構想というのは教育を高めるツールだという考え方なので、私たちも反省しているんです。

それにしても、興味深いところが何点かあって、角館小学校で実証実験を行ったときに実態として、端末を持ち帰ってY o u T u b eが視聴できるか、ビデオ会話が出来るかという実験で、100%の家庭でOKだったのでしょうか。

伊藤北浦教育文化研究所長 You Tube に関しては4年生が8割強、5年生が9割、6年生がほぼ10割。QRコードをつけたのですが、なかなかYou Tubeまでたどり着けなかったという児童もおりました。

ビデオ会話に関しましては、100%大丈夫でした。

門脇市長 例えば、このフェーズが更に高まって、なってほしくはないのだけれども、学校が休校に仮になったとして、一人一台のパソコンは、学校で貸し出ししてあげたら対応は可能だというような見方でよろしいのですか。

伊藤北浦教育文化研究所長 通信状況が整っていない各家庭に、ルーターが配布出来れば可能です。

門脇市長 その貸し出しするルーターが不足しているということでしょうか。

伊藤北浦教育文化研究所長 そうですね。そういう事態になった場合には、コロナの対策費から出していただけるように財政と話がついていると聞いております。

門脇市長 その際の回線の使用料は、どちらの負担になるのでしょうか。

伊藤北浦教育文化研究所長 市で負担すると聞いています。

門脇市長 良かったです。ありがとうございます。

GIGAスクールに関して、教育部長何かありますか。

藤原教育部長 以前、システム関係の部署で勤務していた時にときどき職員

に向けてお話ししたのは、パソコンはボールペンの延長だという話です。田口委員もおっしゃったようにツールはツールでしかない教材は教材でしかないので、北浦教育文化研究所から説明していただいたのは、ハードウェアが主ではないというのが私の考えです。確かに私はハードウェアに詳しいですけども、やはり内容が主なので、どうやって使っていくのかというところからソフト面の重要性になってくると思います。

コロナの関係で、リモート会議やリモート授業が流用的に出てきたのですが、これも緊急的な使い方で、皆さん常時子どもたちが持っているどのような使い方をするのかは、ハードウェアに詳しい人間と、ソフトウェアに詳しい人間とが協働で進めていかなければならないと思います。

今年予算をかけて、アドバイザーをお願いしているわけですけども、それも1、2年で独り立ちできるような形にできれば持っていきたいなと思っています。今後、私もクロームブックについては手探りなところがありますので、実際にいじらせていただいたうえで、どのような発案があるのか、勉強させていただければと思います。

坂本教育長
職務代理者

ひとつ質問してよろしいでしょうか。GIGA スクールで、例えば不登校の子どもさんが学校には行けないけれども授業は受けたいような場合のことも考えていらっしゃいますか。

伊藤北浦教育
文化研究所長

その点について、そのように出来るなど考えておきまして、不登校の子どもにとっても学校とのつながりが出来ますので、検討中のところであります。

門脇市長

義務教育の話の場面なので、いろんな学びの形があっても良いというか、むしろそれが必要な時代にますますなっていると思っています。社会人だけでなく、子どもたちもいろいろな学びの形があってもいいという議論をするべきではないか

などと思います。その中の一つが、今の話のG I G Aスクールから改善できるハード面の整備で、そういうところが新しく変わるといった視点も重要なのではないかと思います。いつか教育委員会の時に話していただければと思います。

事務局の方々、これは話しておきたいという事案は何かありますか。教育部長は、さっきの話に限らず、何かないですか。

藤原教育部長 では、一点だけ。冒頭の長寿命化の話は昨日、事務局と教育長で打合せさせていただきました。その際に、教育委員会としては予算を持っていませんので、定期的に市長部局とのミーティングみたいな形で、本当に計画的にいつのタイミングで修理に入るのかというような修理の関係の話は定期的に進めていきたいという気持ちがあります。今年度スタートということでも良いですので、予算要求の時期だけではなくて、本当に一年かけて次の年の計画を立てるとというような、社会教育施設も含めて学校も含めてなのですけれども、そういう場を設けていただければありがたいと思います。

門脇市長 なるほど。分かりました。
他に何か。佐々木専門官は何かないですか。

佐々木社会
教育専門官 せっかくですので一言申し上げます。新たに中央公民館が設置され、特に今年度は市民からその取り組みが注目される一年になると思っています。コロナ禍という状況下でもありますので、しばらくは市民の安心・安全に配慮しながら事業を実施して参りたいと考えております。どうか皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

門脇市長 はい、ありがとうございます。では、藤村課長はいかがですか。

藤村総務課長 私は事務事業調整室に兼務しております、今年度行政のデジタルトランスフォーメーションといいます行政DXの方を、各部から一人ずつ職員を選任させていただき、事業の洗い出しの方から進めることになると思います。教育委員会からは湯澤課長が指名されているようですので、今後も引き続き行政関係をはじめ、市民の皆様、教育関係の皆様にもご協力いただく場面があるかと思しますので、どうかご協力をお願いいたします。

門脇市長 DXの話はいろいろな関係があって、要するに私が議会の皆様とよくお話しするのは体育施設と公民館施設とかの施設の貸し借りを現場に行かなくても何らかの形で貸し借りがしやすい環境をつくって欲しいというのがずっとありまして、大きく使い勝手がよくなる改正でなければならないと思いますので、皆様方が疑問に思っていることもぜひ室の方にお話しただければと思います。

では、GIGAスクールの進め方については、今後指針とかも必要だといったお話もいただいたので、今後それに向かって作業を進めていただければと思います。

協議案件は以上になりますので、進行を総務部長へお返しします。

大山部長 お疲れ様でした。その他という部分について今の案件以外で、皆様の方からご報告であったり、ご質問等があればお受けしたいと思います。

橋本委員 一つだけよろしいでしょうか。コロナの感染予防対策として、市内の公共施設の蛇口を自動化したらどうかなど。

東京の方の地下鉄でコロナが発生したとき、洗面所の蛇口から発生したというような話があったようですので、仙北市はいろいろなところから観光客がきておりますので、もしそういうのができたらいいのか

など思いました。

そしてそれに合わせて、小中学校の蛇口も自動化してもらえればありがたいと思いました。

門脇市長

今、公共施設の中でも観光の分野の施設については、トイレとか手洗いの非接触型蛇口を付け替えている状況が続くのですけれども、考え方はその通りで、子どもたちが利用する教育施設等での非接触型蛇口設置は必要だと思います。

これは、少しまた議論させていただきたいと思しますので、お願いします。

須田教育長

とりあえず学校の方では、校長会で蛇口を極力使わないためにはということで、水筒をまた復活して、そして水分補給については極力蛇口を使わないようにと指示というか依頼をしたいと思っています。

大山部長

はい、ありがとうございます。他にはございませんか。

倉橋副市長

せっかくコロナの話が出たのでワクチン接種の話ですけれども、12日の週に最初75歳以上の皆様に接種券を郵送しました。そして、13日から予約の受付をコールセンターで始めましたけれども、翌日の午前中で満杯になってしまいまして、予約の受付を中止したのですけれども、すごい苦情の嵐になってしまいました。というのは、国から来たワクチンが975人分しか無かったのに対し、約6,000人の方に接種券を送ったため、5,000人近い方は接種を受けられない。そのままワクチンの供給の見通しが曖昧なままきいてまして、ようやくいくらかめどが立ってきましたので、来週中に予約が外れた約5,000人の皆様に、別途文書で予約の受付を再開するというお知らせをします。そこでお詫びもしますけれども、市民の皆様には5月1日付の広報でその内容を周知したいなどと思っ

ています。

私どもの配慮が足りなかった部分もありますが、全国の市町村で同じような現象が起きています。できるだけ、市民の皆様には情報を提供していかなければならないと思っておりますので、毎月2回発行される広報にて、できるだけ丁寧に伝えていきたいと思っておりますので、教育委員の皆様にもどうかご理解いただければと思います。

大山総務部長 委員の皆様には大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。それではこれをもちまして、令和3年度第1回仙北市総合教育会議を終了します。長時間にわたり、ありがとうございました。

(午前11時50分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員